

令和 6 年第 3 回東北町議会定例会会議録

令和 6 年 9 月 1 0 日（火曜日）午前 1 0 時 0 0 分開議

○議事日程（第 2 号）

日程第 1 一般質問

本日の会議に付した事件

日程第 1 一般質問

◎一般質問

○議長（岡山粕男君） 日程第 1、一般質問を行います。

一般質問の通告は 3 名であります。

通告順に発言を許します。

13 番、蛭澤正雄議員は、一問一答方式による一般質問です。蛭澤正雄議員の発言を許します。

〔13 番 蛭澤正雄君登壇〕

○13 番（蛭澤正雄君） おはようございます。13 番、蛭澤正雄、一般質問させていただきます。

1 つ、地域ミニ計画についてということで、町職員が地域に出向き、地域に住む人々とワークショップの進行状況について、1 問目として伺います。

2 問目といたしまして、小川原湖プロジェクトについて 7 つのテーマを掲げて啓蒙活動しているようですが、啓蒙活動についてと、そしてまたポロシャツの販売をしているが、販売元はどこか、寄附金 500 円の寄附先はどこなのか伺いたいと思います。

3 番として、株式会社 R C G について、企業版ふるさと納税のマッチングはどうなっているのか伺いたいと思います。また、新規取引の提案を地元農協に提案し、地域振興に大きく貢献できる件はどうなっているのか、その進行状況を伺いたいと思います。

4 番として、道の駅おがわら湖足湯併設についてということで、足湯の構想

を議会に示していないが、どうしてかということをお伺いしたいと思います。

5 番として、少子化対策政策について、全国的に少子化が進み、対策に苦慮しておりますが、町長は現況を打破するためにどんな構想、政策または計画があるか伺いたいと思います。

以上です。

○議長（岡山粕男君） 町長。

〔町長 長久保耕治君登壇〕

○町長（長久保耕治君） それでは、13番、蛭澤正雄議員のご質問にお答えをいたします。

一般質問通告のありました質問事項1の地域ミニ計画についてお答えをいたします。質問要旨の町職員が地域に出向き、地域に住む人々とワークショップの進行状況について伺いますについてであります。本年3月の令和6年第1回議会定例会で申し上げた町政運営に関する基本方針の中で、地域ミニ計画については本計画が策定された平成17年から約20年が経過し、地域の状況も変化していることから、地域の実情に合う計画の再編が必要だと感じ、町職員が地域に出向き、地域に住む人々とのワークショップを通じながら、地域の身近な課題等を共有し、つながり、支え合う地域づくりを皆様とともに考えながら、新たな地域ミニ計画を策定していきたいと申し上げさせていただきました。

その取組として、まずは旧学校区等で大きく区分した地域で行うまちづくりミーティングの中で町が現在行っている主要施策をお話しした上で、近年の身近な課題や新たな要望事項等についてお伺いをしたいと考えております。東北地区においては9月25日、26日、30日、そして10月1日の4日間、上北地区においては10月22日から24日の3日間において、旧学校区等で区分した7会場において開催いたします。

なお、その後、このまちづくりミーティングでお伺いした意見を踏まえ、今度は町職員で構成された地域ミニ計画の各地区の担当職員が町内会など小規模単位の各地域に出向き、これまで約20年の間要望されてきた事業等の実施状況の報告や現在の身近な課題等について地域の方々と意見交換を行いながら、新たな地域ミニ計画を作成してまいりたいと考えております。

次に、質問事項2の小川原湖プロジェクトについてお答えをいたします。質

問要旨の7つのテーマを掲げて啓蒙活動をしている。ポロシャツの販売をしているが、販売元はどこか、寄附金500円の寄附先はどこか伺いますについてであります。町では令和6年4月1日からこれまでの取組も含めて小川原湖プロジェクトを始めたところです。小川原湖水質改善啓発活動のため、ポロシャツの販売を道の駅おがわら湖で令和6年4月から、また小川原湖漁協では令和6年6月から始めております。

ポロシャツ販売に先立ち、まずは他の自治体で行っている事業について情報を集め、その中で本町と同様にポロシャツ販売額に寄附金込みで販売している自治体から取組を確認し、併せて会計上の規則等も確認をし、購入者に内訳が伝わっていれば問題がないこと、寄附金の販売元での保管等についても可能であることを確認しているところでございます。このことから、販売元からは本町に対し寄附金として寄附され、町では小川原湖を中心とした自然環境の保全及び資源を生かした観光振興に資する事業等に充当する予定でございます。

次に、質問事項3の株式会社RCGについてお答えをいたします。質問要旨の企業版ふるさと納税マッチングはどうなっているか。新規取引の提案を地元農協に提案し、地域振興に大きく貢献できる件はどうなっているか伺いますについてであります。初めに企業版ふるさと納税マッチングについては、令和3年度から株式会社RCGと企業版ふるさと納税マッチング業務委託契約を締結し、今年度も契約を締結しております。

これまでの実績を申し上げますと、令和3年度は現金寄附1件で100万円、令和4年度には現金寄附2件で計400万円、令和5年度には現金寄附4件で計2,627万5,000円と、物納による寄附が4件で、合計にすると計1,080万3,600円、物納の内容は骨伝導集音器8台、遠隔医療機器1式、軽量小型ランタンが2社から合計1,500個となっております。令和6年度においてはまだ寄附はありませんが、現在ご提案をいただいている案件がございます。

また、株式会社RCGからは、これまで寄附に結びついた案件のほかたくさんのご提案を受けており、その中で町にとって必要なものを総合的に判断した上で寄附につながっているものであります。

今後も引き続き必要なご提案をいただきながら、さらにはこれからも働きかけをし、マッチング支援を継続していきたいと考えております。

次に、新規取引の提案を地元農協に提案し、地域振興に大きく貢献できる件はどうなっているかについてであります。これは昨年の11月初旬に株式会社 R C G が西日本でスーパーマーケットを多数展開している会社から海外にある日本人向けのスーパーで販売している長芋が例年契約している国内の出荷業者からの仕入れが不作により必要数の確保が困難となっているため、他の産地からも集めたいとの依頼を受けたことから、地域活性化起業人を通じて町に相談がありました。

本町としては、町内で収穫された長芋の大部分はゆうき青森農業協同組合に集約されていることから、ゆうき青森農協を紹介しましたが、昨年の収穫期の遅れにより、ゆうき青森農協としても契約済みの出荷数の確保を最優先で対応しており、急な商品の確保もできなかったことや海外に出荷する上で折れにくくするための梱包方法や空輸等の輸送方法など様々な事案等について協議したようではありますが、最終的には価格等の条件が折り合わず、今回は見送りになったと伺っております。

なお、地域活性化起業人においては、現在も新規事業等の橋渡しの役割を担っていただいておりますので、今後も今回のような提案等があった場合には、農産物にかかわらず、地域振興に貢献できるものについては町も積極的に検討してまいりたいと考えておりますので、ご理解を賜りたいと存じます。

次に、質問事項 4 の道の駅おがわら湖足湯併設についてお答えをいたします。質問要旨の足湯の構想を議会に示していないが、どうしてか伺いますについてであります。道の駅おがわら湖の施設内に設置予定の足湯施設につきましては、これまでも何度か町議会において貴重なご意見を皆様からいただいておりますが、いで湯の里らしい特色のあるにぎわいのある足湯の設置に向けて様々な方向から検討を重ね、不測の日数を要しており、施設の構想等につきましては現時点において固まりつつあるものの、議員の皆様へお示しできる状態ではございませんので、ご容赦願いたいと存じます。

また、（仮称）足湯施設につきましては、令和 6 年度内の完成を目指しているため、構想及び設計等が整った段階で議員の方々にご説明する機会を設けさせていただきますので、ご理解を賜りたいと存じます。

最後の質問事項 5、少子化対策政策についてお答えをいたします。質問要旨

の全国的に少子化が進み、対策に苦慮しておりますが、町長は現状を打破するためにどんな構想、政策または計画があるのか伺いますについてであります、国が毎年公表している人口動態調査の結果を見ましても、近年の全国的な少子化による著しい人口減少は国家的にも危機的な状況であり、町としても深刻かつ重要な課題として認識をしております。

このような状況を何とか食い止め、打破していこうと、町では総合振興計画等に基づき、様々な視点から施策に取り組んでいるところであります。1つ目として、生みやすい環境・育てやすい環境という視点からですが、まず昨年政府がこども未来戦略を策定し、抜本的なこども・子育て政策の強化を盛り込んだ基本的な考え方を示しました。これは、「若者・子育て世代の所得を増やす」、「社会全体の構造や意識を変える」、そして「すべてのこどもと子育て世帯をライフステージに応じて切れ目なく支援していく」といった基本理念の下に、若い世代が希望どおり結婚し、希望する誰もが子供を持ち、安心して子育てできる社会、子供たちが笑顔を暮らせる社会の実現を目指したものであります。

また、県においても今年度、学校給食費無償化等子育て支援市町村交付金事業を実施するなど、子育て支援を強力に推し進めているところであります。

町といたしましても、これら国や県の政策に先んじて、独自に子供の医療費無償化事業やこども未来支援金事業などの子育て世帯を支援する事業を既に多く実施し、育児の経済的負担を軽減する施策を進めているところであります。

このように、現在少子化対策は国家レベルで取り組んでいる課題であり、子育て環境は妊娠から学校を卒業するまで段階的に充実しつつあります。

町といたしましては、国や県が進める事業に速やかに対応しつつ、町独自で実施が可能と判断できる施策があれば、積極的に取り組んでまいりたいと考えております。

2つ目として、就労の場をつくり、次世代を担う人材を定着させるという視点からですが、具体的には町の特色を生かした新規就農者育成総合対策事業や、また県外などからの定住促進のために東北町移住支援事業や住宅に困窮する若者世帯の生活支援と定住を促進するために新婚世帯定住促進支援事業を実施しており、これらの施策により若い世代の移住や定住を促進していきたいと考えております。

3つ目として、地域の魅力を磨いて発信し、活力ある地域づくりに取り組むという視点からですが、町の未来を担う子供たちや若年層はもちろんのこと、全ての住民が安心して暮らしていくために教育や医療、交通などの環境を整えつつ、町の観光や産業、イベントなど町独自の魅力をブランディングしていき、東北町テレビや広報紙、SNSなどで発信していくことに注力しております。

以上、これらの施策を総合的に推進していくことで町の活力を保ち、将来にわたる持続可能な町づくりを目指しているところですが、いずれにいたしましても、少子化・人口減少問題という大きな課題に対し町民が一丸となって考えていくことが大切で、一人一人が協力し合うことでこれらの施策は実りにつながると考えておりますので、蛭澤議員をはじめ何とぞ皆様のお力添えを賜りますようお願いいたします。

以上、答弁とさせていただきます。

○議長（岡山粕男君） 蛭澤正雄議員。

○13番（蛭澤正雄君） それでは、1問目の地域ミニ計画についてですけれども、町長が今年度座談会、そしてまた職員は出向いてワークショップをすると、そういうふうな計画ですけれども、では町長が当選してから3年半、町長は先回の中で「住民が活きる協働のまちづくり」ということでやりましたけれども、ミニ計画を見直しするのがそれだと。では、今まで3年半何やってきたの。今年そういうふうにするということは、職員をつけてワークショップをやるということは、私は3年半何もやってこなかったのではないかなと思うのだけれども、何でワークショップ、では去年なりおとしなりやらなかったのかなと思いますけれども、その辺の事情を町長から伺いたいと思います。

○議長（岡山粕男君） 町長。

○町長（長久保耕治君） 今何もやってこなかったという指摘がありましたけれども、町民の声にまずは耳を傾けるという意味ではまちづくりミーティングであったり、町民の声のはがきであったり、あとはご意見箱等で意見を伺ってまいりました。また、それらを町職員とともに検証を……

〔「町長、私ワークショップ何でやらなかったかということを知っているんだよ」と言う人あり〕

○町長（長久保耕治君） その前、だから前段でのお話をしております。

〔「いやいや、前段のお話は要らない
べ」と言う人あり〕

○町長（長久保耕治君） そういったものでしっかり検証を重ねた上で、なおかつ平成17年にミニ計画を作成したという部分があったのですが、それを見直す必要があるということで検証して今まで来たところでございます。そういうことであります。

以上です。

○議長（岡山粕男君） 蛭澤正雄議員。

○13番（蛭澤正雄君） 私、やはり基本方針というのは非常に町としては大事な
ので、何回も質問しておりましたけれども、ミニ計画の見直しだと。

あと、もう一つは保戸沢集落の人たちを一つモデルとして2年、3年計画でほかの町内会にも波及させると、それも先々回でしたか、言いましたけれども、これは回答は要りませんけれども、ただこれも補助をもらってやると言ったのだけれども、補助もらっていないようですけれども、これも非常にまちまちといえますか、話がつながらないといえますか、その辺で私は本当に残念だなど思うのは、本当に大事なことのだけれども、実っていない、中身がついてきていないということで、私は終わらせていただきます。

では、次に2番目の小川原湖プロジェクトについてですけれども、7つのテーマを掲げて啓蒙活動しておりますけれども、町長は小川原湖のプロジェクト、水質改善ということになると思いますけれども、この7つの中で特別な予算をつけてこういうふうにやりますよというふうなことがあったら、短くでいいので、ご紹介したいと思います。

それから、ポロシャツ販売の件ですけれども、テレビ等様々な点で議会にも販売に来ましたけれども、ポロシャツに関して役場はさもさも販売しているよというふうなことで宣伝しております。それは違法ではないということですので、あと寄附も違法ではないということで、それは私は当然調査してやるべきだと思っております。

ただ、ここでポロシャツに対して役場が幾らかでも補助しているのか、なおまた職員が19日に全員着るとかということがあるようですけれども、この2つ

の点をお伺いしたいと思います。

○議長（岡山粕男君） 町長。

○町長（長久保耕治君） お答えをいたします。

まず、小川原湖プロジェクトは始まったばかりですので、様々な流域の市町村にも啓発活動をして、今いろいろなプログラムを策定している段階でありますので、これにお金を投入していくとかというところでは始めているところではありません。やはり今いろいろな形の中で皆さんからご提案をいただいて検証している最中ですので、ご理解をいただきたいと思います。

あと、ポロシャツに対する補助金はございません。

19日に小川原湖の番地が191ということですので、それにちなんで一応職員の方々に対してはみんなでポロシャツを着ましようという啓発活動はしておりますが、基本的には自由ということで、着ない方々もいらっしゃいますが、それに対してどうのこうのということもございませんが、ほとんどの職員の方々に賛同いただいて、皆さんに着ていただいたり、その他青森銀行の皆さんとか農協の皆さんとかにもご賛同いただいて、皆さんに着ていただいて、啓発活動を本当にしていただいて、大変ありがたい状況になっているところです。

以上です。

○議長（岡山粕男君） 蛭澤正雄議員。

○13番（蛭澤正雄君） 町長、補助金は出さないにしても、職員はこのポロシャツを9割9分購入したのかしないのか、その辺分かる方ありますか。それを答えてください。

○議長（岡山粕男君） 保健衛生課長。

○保健衛生課長（萌出大樹君） お答えいたします。

職員の皆様については、3月に募集しております。このときに何枚かまでは分かっておりませんが、買っていない方は数名だということになっております。よろしいでしょうか。

○議長（岡山粕男君） 蛭澤正雄議員。

○13番（蛭澤正雄君） 町長、私これが1つ問題だと思います。町長という立場で職員の皆さんに購入してください、そしてまた19日、皆さんでPRのために着てくださいと。職員が町長に言われれば、町長はどう思っているか分かりま

せんけれども、職員にしてみれば、買わざるを得ないと。本当に町長に威圧感を感じて買っている方もあるのではないかなと。そういう疑いがありますけれども、笑っているけれども、これ非常に今問題なのです。今県知事いろいろあるでしょう、パワハラ疑いがあるとか。町長はその辺どう思っていますか。

○議長（岡山粕男君） 町長。

○町長（長久保耕治君） お答えをいたします。

啓発活動はしていますが、強制はしておりませんので、実際買っていない方々もいらっしゃいますし、また着ない方、事情があつて例えば着られない方、様々いると思いますが、それに対してどうのこうのもありません。

また、今テレビで話題になっているどこかの話を出して、そういうレッテル貼りとか印象操作みたいなことをするのは、ちょっと質問にそぐわないのではないかなということを付言させていただきます。

○議長（岡山粕男君） 蛭澤正雄議員。

○13番（蛭澤正雄君） 町長、私再質問はしませんけれども、こういうのをやる場合は、やはり本当に慎重にしなければ、そういうふうに誤解を招くわけです。町長から聞いて、ないというのは当たり前の話です。ただ、私は苦言を、これから、そういう意味では19日に皆さん着ましよう。でも町で補助しているのなら違うよ。その辺が私は捉え方によって問題だなと思っています。この件はこれで一応、終わります。

次に、株式会社R C Gですけれども、町長は先ほど実績を2,000万とかと。2,000万というのは中部のことではないですか。それが入っているか入っていないか、それをお伺いします。

○議長（岡山粕男君） 町長。

○町長（長久保耕治君） 中部のことというふうにおっしゃいましたが、町があくまでも寄附を受けたものでございます。それを両方構成町でもって、中部の病院のほうで有効的に活用してくださいということで、中部のほうで有効活用しているところでございます。

以上です。

○議長（岡山粕男君） 蛭澤正雄議員。

○13番（蛭澤正雄君） ちゃんとやっぱり中部に医療機器として二千何百万だか、

それはだってその手数料払っているのはこの東北町ですよ、四百何十万。七戸町は多分払ったか払わないか、それは分からないのだけれども、東北町はたしか手数料払っているはずです。

それから、もう一つ、R C Gが町長は町長としてお金を町のために働かなければならない、そしていろいろ前にも言ったとおり、いろんなところに行っても、ないと、ここに頼れば、財政としてマッチングすれば、2億なり、それからある町村は50億も町でもらっているのだと、それに頼るのだということで町長はこれを提携したということでしたよね。

新聞には、道の駅から観光バスを出すような大構想を出していました。私は、いや、すごいなと思ったけれども、さっぱり現金で企業マッチで何千万単位とかそういうのもないし、そしてまた私が確認したいのは、この会社が赤字で来ました、だけれども令和6年度だか5年度だか黒字になる予定ですよと言いましたよね。

では、この2問ですけれども、町長は財政として企業版マッチング億単位で入るのだと、何千万単位で入るのだと。もう一つは、この企業が3年過ぎれば、黒字になる予定だということでありましたけれども、2つに対して回答願いたいと思います。

○議長（岡山粕男君） 町長。

○町長（長久保耕治君） お答えをいたします。

まずもって、七戸町が手数料払っているかどうかというお話なのですが……

〔「いやいや、それは要らないと」と

言う人あり〕

○町長（長久保耕治君） いや、ちょっとこれははっきり言わせていただきますが、企業版ふるさと納税のルールにのっとって、七戸町もちゃんと手数料を払っているということを付け加えておきます。

あとは、何度もこの質問を蛸澤議員からいただいております、そしてそのときに何回も何回も同じ回答をしていると思います。また同じ回答になってしまおうと思うのですが、まずもって企業版のふるさと納税の部分に予算を頼り切るとは一言も言っておりません。観光振興において、こういった企業版のふるさと納税を観光振興のためにということで寄附をいただいているので、なかな

か観光振興に対する補助金というのがいいものがないので、これを積極的に使わせていただきたいということで利活用したいという回答はしているところです。

また、今赤字の話になりましたが、今いつの話をしておりますが、今までの説明の中ではそうでしたが、まだ企業としては決算が例えば令和6年度の決算等は終わってはいないので、そういった部分は分かりませんが……

〔「5年度は分かるでしょう」と言う
人あり〕

○町長（長久保耕治君） 5年度。

〔「5年度分かるはずでしょう。6年
度今始まったばかりでどうして分かるの」
と言う人あり〕

○町長（長久保耕治君） 5年度もちょっと私は分かりませんが、今担当課長のほうから答えさせますが、そういった形の中でいわゆる観光振興をしっかりと進めたいという思いで行っておりますし、また時代とともにいろいろなことが変わります。先ほど一番最初に言われたような話の中で、皆さんからいろいろご意見を伺いながら、観光振興はぜひとも東北町に必要なものですので、それにしっかりと力を入れて進めていきたいということでこういった予算をしっかりと注いでまいりたいということは、ひとつちょっと力を入れて言及させていただきたいと思います。

以上です。

○議長（岡山粕男君） 正雄議員、ちょっとさっき蛭澤さん質問したことを企画課長に答弁させます。

企画課長。

○企画課長（林 博幸君） お答えいたします。

令和5年度のRCGの決算額、また損益については、申し訳ございませんが、現段階では把握しておりません。

以上です。

○議長（岡山粕男君） 蛭澤正雄議員。

○13番（蛭澤正雄君） 私の言いたいのは、ふるさと納税のRCGについてなぜ

こういうふう聞くかという、やはり派遣の職員を受入れしているわけです。そういう中で、やはりある程度私は実績を上げてほしい、そう思っております。今のところは実績はないみたいですので、そんなに期待はしません。

そういう中において、新規事業の農協、大きな取引があると聞いておりましたけれども、いろんな理由でバック詰めとか、あと長芋が折れるとか、私はそういうのは織り込み済みだと思います。簡単にはそういう大きい取引できないというのは私も予感しておりましたけれども、非常にそういう面で私はR C Gの取組をもう少し精査すべきではないかということを書いて終わります。

次は、足湯の構想ですけれども、いろいろなことでまだ構想を示せない。これは、どこから補助もらうためにそうなのか、単純にただただ構想が練られないのか、そこをお答えください。

○議長（岡山粕男君） 建設課長。

○建設課長（阿部雅彦君） お答えをいたします。

今令和5年度の事業として予算を成立していただいて、令和6年度に繰り越しております。これにつきましては、にぎわいのある、もしくはそこを出発点として話題性も豊富な道の駅に併設の足湯ということで、いろんな方面から検討しています。いろんな補助関係につきましては、一切補助はないので、単独費の事業となりますが、できる限りいろんな案を受け入れながら、何とかそこに発信基地とした施設を建てようということでいろんな議論をしまして、不測の日数になったということでございます。よろしくお願いいたします。

○議長（岡山粕男君） 蛭澤正雄議員。

○13番（蛭澤正雄君） 足湯の件ですけれども、非常に私は、そんなに難儀するくらいの足湯であれば、いっそやめたほうがいいのではないかなと思います。

3,800万、今補正といいますか、予算を出しているみたいですが、3,800万以上かかると思います。この間補正もちょっと組んだみたいですが、足湯が先般は足やってペットとか、今度は打合せでは変わったことがないので、どうのこうのと言っていましたけれども、そこまで無理してまでやる状況ではないと思います。私はそういう中において、もう少し東北町の3,000万なり、約4,000万ですが、これを別な過疎債というのものもあるし、そういうのにのせたら、もっと億単位で仕事できるはずです。道の駅に足湯造ったからと、

毎日100人も1,000人も来るわけではないですよ。どこまで効果あると思いますか、町長。

○議長（岡山粕男君） 町長。

○町長（長久保耕治君） これも何度もお伝えをしておりますが、町も20周年、道の駅も今年で20周年だということで、いわゆるいで湯の里のシンボリックな形の中で特色を持った足湯を造りたいということで始めさせていただいているものでございます。

議員の皆様には構想がないのではないかという部分もありますけれども、やはり町としてもいで湯の里ということですので、しっかり力を入れながら、ぎりぎりまで皆さんからご意見を伺って、しっかりしたアイデアを示すために今まで時間をいただいているということをご理解願いたいと思います。

また、よく「難産の子は丈夫に育つ」というふうな言葉もあるように、やはりそうやって検討に検討を重ねてなっているからこそ、蛭澤議員は先ほどそれぐらいだったらやめたほうがいいというお話でしたけれども、私はだからこそみんなに愛される足湯がこれから出来上がって、みんなにかわいがっていただき、さらに足湯をまさにベースに様々な意見をいただきながら、足湯ができたということがスタートではなくて、足湯に対してプラスアルファの様々な施設も設置できるような形で皆さんからアイデアをいただいて持っていければいいなと思っております。それが10年、20年先につながる、またいで湯の里のシンボルにもなる、そのように考えておりますので、ご理解賜りたいと思います。

○議長（岡山粕男君） 蛭澤正雄議員。

○13番（蛭澤正雄君） お産ではないので、難産ではありませんよ。町長、こういう本当に大変な時期に、こういう造り物は町民は要らないと思っていますよ。私は、まだ構想もできていないというくらいですから、何も20周年に誰も町民が足湯を造ってくれという思いはないと思います。もっと生きたお金として使っていただきたいというのが町民の考えだと思います。そういう意味で、ぜひとも20周年は記念式典で十分です。これはやめていただきたいということで、私締めておきます。

次は、5番として少子化対策。全国的にどこもここも、もう少子化で大変だと。先般テレビ等では、福岡県でPTAが解散したと。非常に東北町ばかりで

なくて、全国的にそうです。そしてまた、東北町も祭りなんかやっても、本当に小太鼓たたく子供、それから乙供地区は神楽もありますけれども、それをやる中学生なり子供たちが集まらないと、本当にみんな苦慮しながらやっております。

そういう中で、先ほど私は町長に構想、政策または計画があるかとお伺いしましたら、国、県、町村、町長はそういう基本計画の中でやるのだということを答えていただきました。私は、それ以上のこと、若いからもっともっと斬新的な構想があるのかなと思っておりましたので、ないということで非常に本当に残念です。

これ以上聞いても、構想を聞いたって、もう言ってしまったことを……私には執行者に対して言う権利はないので、ただ本当に国、県、その中でやっているだけのことをやるということは、私は本当に将来心配だなと考えております。

以上です。これで質問終わります。

○議長（岡山粕男君）　これで13番、蛭澤正雄議員の一般質問を終わります。